

6.1 カリキュラムの編成

進捗状況報告

<p>【6.1.1 教育課程】体験学習型の連携科目群については、2008年度は2007年度と同様に「地域フィールドワーク（宝塚2）」、「地域フィールドワーク（伊丹）」、「地域フィールドワーク（伊丹2）」、「地域フィールドワーク（西宮）」を開講している。また、高大連携科目「アメリカ理解教育」などの科目も継続して開講している。さらに、国際科目群についても2008年度、「海外社会体験実習」の科目を開講している。これら以外に、寄附講座・連携講座として2008年度も「トップアスリート指導論」、「タカラヅカ学」など、学外からの講師を招き実践的な知識の獲得を目的とする科目を開講し、学生の専門科目等へのモチベーションを高める工夫をしている。</p>
<p>ジョイントディグリー制度については、2007年度末には、社会学士と法学士が1名、経済学士と社会学士が1名、経済学士と法学士が2名、計4名が二つの学位を修得した。また、2008年度では6名の早期卒業者と4名の通常卒業者が二つ目の学部で学んでいる。また、ライフデザインプログラムに関しては、学生のニーズも高く、2008年度には、「キャリアデザインと自分」を1クラス、「社会の中での自分（インターンシップ講義）」を1クラス、「ソーシャルスキルとチームワーク（インターンシップ演習）」2クラスを、それぞれ増設し、ライフデザインプログラムを充実させた。さらに、全学開講科目の「総合コース」にある人権関係科目群については、2008年度に学則改正し、総合コースから切り離して、新たに独立し充実させた人権科目群として整備すべく、2009年度に向けて、組織体制を整備している。これらの科目に関してはすべて教務委員会の審議を経て決定されているものであり全学的な意思決定で進めることには変わりはない。</p> <p>【6.1.2 履修科目の区分】「学際・連携科目」に関しては、「学際科目群」、「国際科目群」、「国連科目群」、「ライフデザイン科目群」、「連携科目群」、「エクステンション科目群」に領域を区分し、学生の学習目的により、履修しやすくグループ化をはかり提供しており、2008年度も継続して開講している。</p>
<p>【6.1.3 授業形態と単位の関係】多様化する入試制度の中で受験し入学する学生に対する初年次教育や教養教育のあり方に関しては、今後の大学教育の動機付けという観点からも重要であり、教育課程委員会でも議論されてきたが、本学では、2008年度に人間福祉学部が開設され、また、2009年度には教育学部の開設準備が進んでおり、さらに2010年度の国際学部の開設検討が行われている最中で、教養教育のあり方にも影響されることも考えられるため、教育課程委員会では慎重な議論を行っているところである。</p>
<p>【6.1.4 単位互換】広島女学院大学のほか、2008年度からは兵庫医科大学との単位互換を実施している。</p>
<p>【6.1.5 開設授業科目における専・兼比率等】各学部のカリキュラム検討の中で、それぞれ考えられている。全学的な場での議論はないが、2008年度は、専門教育科目の専兼比率は約43%、教養教育については、約51%であった。この数値に対する客観的な物差しはないが、ほぼ適切な比率であるのではないかと考えている。</p> <p>【6.1.8 生涯学習への対応】オープンセミナーは、神戸三田キャンパス講座について三田市との共催とし、広報活動および開催場所の提供や当日の運営についても三田市の協力を得て、参加者を大幅に増やすことができた。KGLPについては、科目等履修制度を応用し15テーマからなる学部横断カリキュラムを編成し提供した。ビジネスパーソン対象の講座として、「三日月塾in大阪」、「丸の内講座in大阪」を立ち上げ、3年目を迎え順調に受講者を確保している。卒業生を対象としたキャリアアップを支援するプログラムとしての卒業生就職支援プロジェクトに「一般プログラム」を加え「総合コース」と「国際コース」をスタートさせた。</p> <p>【6-1-9 正課外教育】正課外教育（エクステンション等）「ライフデザインプログラム」としてのエクステンションプログラムは、導入後4年目となり、在学生の間でもかなり浸透してきたと思われる。受講状況を勘案しながら講座を設定している。マイスタースクールは、2007年度大同生命保険株式会社からの寄付講座をマイスタースクールと位置付け「中小企業の事業継承問題」と題して開講した。また、会員に対してマイスタースクールニュース」を配信し、生涯学習課プログラムだけでなく、他部課が実施する社会人向けプログラムについても広報に努めている。</p>

学内第三者評価

<p>2005年度より一貫した方針により、キャリア教育、生涯学習、ジョイントディグリーなど学部の垣根を越えた教育など継続的に改善の取り組みが行われていると認められる。生涯学習の「三日月塾」「丸の内講座」については参加者も多く、満足度も高いと考えられるので、自己評価としても、高く評価することができるはずである。全体として、自己評価の観点からも記述することが望ましい。例えば、学生の教育についても、大学全体として、すなわち、学生の多数にとってどのような成果があったのか、可能なかぎり自己評価を行うことが望ましい。</p>
<p>なお、学外委員からは以下の意見があった。</p> <p>2007年度末にジョイント・ディグリー制度によって二つの学位を修得した卒業生が4名あり、現在さらに多数の学生が履修していることが認められる。</p> <p>キリスト教主義に基づく教育を大学の理念としているのであれば、生涯学習やエクステンション・プログラム等の社会への開放を意識した取り組みにおいて、キリスト教神学や文化・歴史等に関する講座が開設されることが望ましいのではないかと。</p> <p>教育の質保証の観点から設置基準が改正され、質の高い教育が求められるようになってきている。教養教育ないし学士課程教育に関しては、今後とも議論を継続していくことが望まれる。</p> <p>2008年度から兵庫医科大学との単位互換が実施されるようになったのは前進である。</p> <p>全体として、カリキュラムの編成に関して、さまざまな意欲的な試みを実施していることは評価できる。蛇足ながら、こうした試みについては可能な限り教員や受講生にアンケート調査をするなどして検証と改善のためのデータを蓄積していくことが望まれる。</p>